

# 小学生に工作講座

## 田辺工業高校の特徴生かし

田辺市あけぼのの田辺工業高校は12日、小学生対象の「ものづくり工作講座」を開いた。初めての企画で、近隣の田辺東部小の児童が高校生に教わりながら工作に打ち込んだ。



高校生に教わりながら工作を進める小学生(田辺市あけぼの)

昨春に設立した田辺工業高の「ビジョン委員会」が学校についてより知ってもらえるよう講座を企画した。講座には小学生との関わりを通して高校生の思いやりの心を養い、工業高校の特徴を生かした人材を育てる狙いがある。田辺東部小理科・実験クラブの4、6年生16人が参加し、手回し発電で動く「相撲ロボット」のキットを組み立てた。発電の原理を聞いた後、高校生に手順を教わったり、助言を受けたりしながら制作を進めた。

小学生は工作のほか、学校の案内も受け、物作りに携わる同高校について知った。

田辺東部小4年生の田中業弥さん(9)は「難しいけど、お兄ちゃんの方がやりやすく説明してくれて楽しかったです」といい、田辺工業高機械科3年生の中嶋祐聡君(17)は「楽しいし、社会に出たときの話や練習にもなる」と話した。

田辺工業高校では今後、中学生や市内の全小学校対象の講座も開いていきたいという。

# 皆で山をつくろう

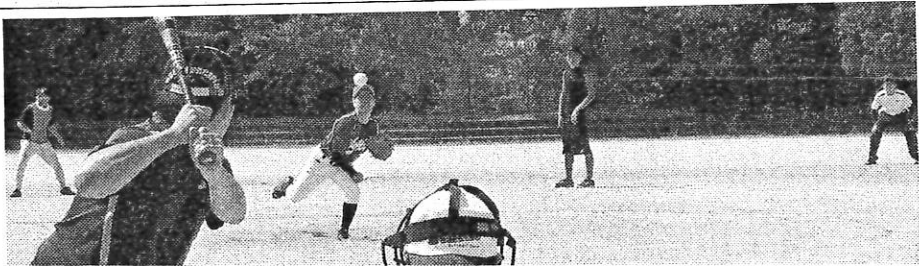
## 田辺市長 広葉樹の植栽事業で講演

いちいがしの会

熊野の森ネットワーク・いちいがしの会(竹中清会長)はこのほど、田辺市内で真砂充敏田辺市長による森林事業の講座を開いた。真砂市長は「

今後の森林づくりについて語った。田辺市の面積1,026平方キロのうち、森林が9割を占め、約7割が人工林。ほとんどが民営林で、50センチ以下の近自着

を把握していない人が増えているという。市の補助事業「よみがえりの森つくり事業」(予算400万円)は、山の保水力を回復させることを目的としており、国や県の造林補助事業に上乗せする形で活用する。最大で88%の補助になる。市内にある森林組合から事業提案を受け補助金を出す一方で、近い将来、笠塔山から虎ヶ峰にかかる尾根筋をモデルラインとして考えていること



# 炎天下

## 新店

田辺市の新庄公民館第63回新庄職域・地域大会が14、15日、新庄グラウンドで開かれた。もから大人までの地元つくる軟式野球8チームして、炎天下、熱戦した。

野球を通じた地域の目的に毎年開催している。今年は降雨で試合ができ

に關心を持ってもらい山をつくる意識を持つ」と呼び掛けた。山の役目について説広葉樹を植えることがだけでなく、土砂崩れ被害の対策にもつながる。「自然林は海、川、山を取り戻したり、CO2を吸収したり、価値を出したりする。『価値価値山』のり」を考え、子どもと人々にアピールして」と話した。